

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	平成 21年 8月 17日	開設年月日	平成 18年 12月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19-6-2F		
訪問調査日	平成 21年 9月 15日	評価結果決定日	平成 21年 10月 15日

グループホーム あすなろ 南陽 (西通り)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活のなかで、出来る事は率先してして頂いている。又、職員が待つ姿勢を持ち一人一人が少しでも自信が持てる様支援している。週1回のペースで行うミュージック・ケアはだいが利用者の方々にも定着してきた。利用者皆様をよく見て思いを汲み取り、心豊かに過せるよう環境作りに勤めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 東通りに記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新年度より新しい理念を職員全員で話し合い作成した。それに基づき実践に活かせるよう常に振り返り心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の地区のお祭りにおみこしを見せてもらったり、夏祭りに地域の人より準備など協力いただき、交流している。又、地区のボランティアの受け入れも行い交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか機会は無く、これからの課題である。以前、無断外出した方がいた時は、地域の方に声をかけて頂き、無事探す事ができたという事が有った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年、夏祭りや防災訓練を予定しており、会議のなかで積極的な意見を地区の方々から出して頂けるようになった。具体的にアドバイスを受けたり、認知症について知りたいような感じを受け、良い関係が築けそうになったと思う。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度、福祉課の係長が変わり、制度の変更についてなど今までより積極的にかかわりを持つようになったと思われる。又係長が毎回推進会議に出席されているので、当施設の現状は把握して頂いている。又包括支援センターの職員とも交流があり情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	代表者・職員とも拘束については十分理解している。ベッド柵を2つつけたりする時は事前に家族の同意を得ている。鍵はやむを得ない時のみその場のみ行う時はあるが事前に家族の同意を得ている。さらになるべく拘束しないようなるべくそばについて安心できるような対応心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して伝達研修を行い、学習する機会を設けている。又、常々虐待が見過ごされることが無い様報・連・相を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最低年1回は研修があるので、参加して、伝達研修を行っている。必要な時戸惑わず対応できる様、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、内容の説明も大切だが、ご家族の意向・思いを必ずお聞きする様にしている。しばらくしてから疑問点が出てくる事があるので、いつでも話せるような体制を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時などこちらから声をかけ、不安が無い様配慮している。また、必要時電話等でアプローチさせて頂く事もある。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換できる様レジメを作成し提案・意見を聞き、皆で話し合う機会を設けている。又緊急に対応が必要な時は、個別に聞き、必要時申し送りノートに記入し、周知するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は月毎報告している。又、個人の家庭の事情に応じ、安心して仕事ができるよう希望休を取り入れている。又半年毎の自分のケアに対する目標を立ててもらい人事考課の参考になっている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフ1人1人の力量を把握するまでは至っていない。しかし、管理者は毎日の業務・過ごしの中で、必要な研修を受けたり、気付きから学ぶ事などを伝達し、スキルアップに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム協議会の会合に参加したり、交換実習などに参加できるよう取り組んでいる。又、実践者研修を通じ、サービス向上できるような交流の場を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面接・見学・実調の際、本人やご家族の不安や要望が少しでも和らげる様十分な聞き取りをさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までスムーズに進められるよう、御家族・本人の本当の思いを十分にお聞きする。必要な情報を共有できるよう個人ファイルに記録し、同じ対応が出来るよう周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、環境に慣れて頂く為今必要な支援をきちんと申し送り、入所後の予測を見極めニーズにあったケアができる様務めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意見を尊重し、かつての経験や昔の風習などお聞きし取り入れるよう務めており、料理や掃除など実際一緒に行い共に生活している事を感じてもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様とのコミュニケーションを密にし、食事・買物・外出の要望・病状等をお伝えし、なるべく出向いて頂けるようにアプローチしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知人や親戚など自由に来所出来るよう解放している。又、なじみのパーマ屋に出かけたりこれまでの関係を維持できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルを最小限に抑える為、テーブルの位置・個別に係わる時他の利用者様にも配慮し、声がけしたりお互い良い関係を築けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し入院した方には、通院の際面会に回ったり、今後の対応を悩んでいる方には電話でアドバイスをしたり、在宅のケアマネージャーに先に電話で依頼したりし、御家族が困らないよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設で安心して穏やかに過ごして頂けるよう折に触れ意向の確認をしている。又、食べたいものを聞いたり電話の依頼などできる範囲で支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用した利用者様・ご家族様の情報収集の他施設内でのスタッフと利用者様とのふれあいの中でその方の昔の生活の話などを基にこれまでの暮らしが把握出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・バイタルチェック表・排泄チェック表を基に現状の把握に努めている他、日課や手伝い等日常の行動・言動を常に見ながら個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には3ヶ月に1度モニタリングを実施している。状況に合わせて必要時行っている。家族の面会時現状をお伝えし意向を確認している。スタッフとは月に1回カンファを実施し意見交換・状況把握に努め計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各チェックシートを活用し、必要時書式を検討し個々の把握が出来る様努めている。個別記録を充実できるように常に心がけている。又カンファ等で検討し合い常に計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別にパーマ屋に出かけたり、家族と地域の商店に出かけたりし、馴染みの生活を忘れない様心がけている。スタッフとも買い物に出かけたり通院の際個別に季節の風物に触れられるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との連携を心がけ、本人が安心して過ごせるよう努めている。受診報告書を活用し、個々の状況がわかるよう努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護職員は配置していないが、往診していただいている看護師さんへは、状況報告・伝達・連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、面会させて頂き状況の把握に努めている。又状態が悪くなった時は主治医に連絡し、必要時家族の同意の下紹介状を頂き大きいHPに受診できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時意向確認を取らせていただいている。又看取りについて事業所内で検討中だが、まだ体制は出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習は定期的に行いスタッフ全員実施しているが対応についてはまだ不安がある。緊急連絡網を作成し見えるところに貼り緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間を想定した避難訓練を全スタッフで実施している。地域の方より合同で実施したほうが良いとの意見あり検討中。10月に市の防災訓練に参加する予定。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度に気をつけながら個々のプライドを傷つけないよう配慮している。又入室の際はノックをしている。トイレ使用時は戸を閉めるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人が話しやすいような環境設定を心がけている。又個別に話を最後まで聞いて差し上げ思いを汲み取れるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせ生活出来る様心がけているが、どうしても業務優先になりがちなので反省している。最近振り返りをして周知するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや外出時声がけし一緒に服を選んだり、化粧・おしゃれをほめたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ・盛り付け・配膳を一緒に行っており、利用者様と一緒に食事をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の希望も取り入れスタッフが献立作成している。脱水防止のため摂取量の把握をし、足りない方には個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所近くにセットし毎食後実施している。声かけ・介助は能力に応じ個別に対応している。出来るだけ自分でいただき、磨き残しが無いか後で確認させて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、誘導や介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態にあわせ主治医より下剤を頂いている方には状況把握しながら、水分と食事量の把握を行っている。又個別に運動が必要な方には声かけし、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には午後の時間に入浴を実施している。時間も大体決まっており職員の都合で実施されている。現在サービスの見直しを行っており、今後は利用者様に合わせるよう検討中。まれに必要時早朝や夕方はある場合はある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の為、プライバシーが守られ、好きな時間に休息できる。又ホールでもスタッフとくつろいだり自由に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をもとに服薬確認・与薬を行っている。間違いなく服薬するよう2人で声掛けあっている。症状が変化したり疑問な点が出た時はその都度すぐ家族・医療機関に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での掃除・洗濯・食事作りなど出来ることはして頂き張合いを持って生活して頂く様心がけている。歌を歌って昔を思い出したり、詩吟・お経を聞いたり自由に来る空間を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の周りは散歩がてら出かける事はある。又温泉が近いので足湯にはよく行く。行事に花見を取り入れ、サクラ・つつじ・ゆり・ダリアと季節ごと企画し出かけ季節を感じて頂く様子心がけている。今後行事に家族やボランティアを取り入れたいと思っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で持っている方もいるが、会計はスタッフが管理していて家族には定期的に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と自由に電話をしたり、友人からの手紙を受け取ったりしている。携帯電話を持っている方は、自由かけられるので精神的に落ち着いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備・掃除(特にトイレ)を行い気持ちよく生活して頂けるよう心がけている。季節の花を生けたり、行事の写真をホールに貼ったり、目で楽しめるよう工夫している。空調は常に見回り心地よく過ごせる様努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳・ソファ・テーブル・椅子などホールに設置し、快適に過ごせる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時好みの調度品を持参しても良いと話している。状況に応じ個別にベッドの位置や衣装ケースの位置を変え心地よく過ごせる様努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや表示をして戸惑わないよう工夫している。又道具など取り出せるよう工夫したり、高さがあわず困らないよう更に配慮は必要と思われる。		